



## 2026年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年10月31日

上場会社名 株式会社キングジム  
コード番号 7962

上場取引所 東

URL <https://www.kingjim.co.jp/>

代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 美代子

問合せ先責任者(役職名) 取締役専務執行役員管理本部長 兼 CFO (氏名) 原田 伸一 (TEL) 03-3864-5883

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2026年6月期第1四半期の連結業績(2025年6月21日～2025年9月20日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年6月期第1四半期	8,251	△6.1	△213	—	△135	—	△298	—
2025年6月期第1四半期	8,785	7.9	△252	—	△75	—	△218	—

(注) 包括利益 2026年6月期第1四半期 174百万円(—%) 2025年6月期第1四半期 △389百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年6月期第1四半期	△10.63	—
2025年6月期第1四半期	△7.76	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年6月期第1四半期	36,375	24,029	65.8	851.27
2025年6月期	35,513	24,052	67.5	852.06

(参考) 自己資本 2026年6月期第1四半期 23,942百万円 2025年6月期 23,965百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年6月期	—	7.00	—	7.00	14.00
2026年6月期	—				
2026年6月期(予想)		7.00	—	7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2026年6月期の連結業績予想(2025年6月21日～2026年6月20日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	18,600	0.4	220	—	370	104.4	110	—	3.91
通期	42,000	6.0	1,500	179.0	1,600	91.3	1,000	135.3	35.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年6月期1Q	31,459,692株	2025年6月期	31,459,692株
2026年6月期1Q	3,333,516株	2025年6月期	3,333,516株
2026年6月期1Q	28,126,176株	2025年6月期1Q	28,093,898株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・決算補足説明資料は、本日、当社ウェブサイトに掲載する予定です。  
決算補足説明資料 <https://www.kingjim.co.jp/ir/library/tansin.html>

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・賃金の改善やインバウンド需要の増加等を背景に内需拡大が継続するとともに、円安を背景に輸出関連企業を中心に引き続き緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、消費者物価は原材料費や人件費の高騰により上昇傾向が続いており、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況のもと、「社会の変化の波をチャンスと捉え新たな成長へ」をテーマに掲げ、第11次中期経営計画（2025年6月期から2027年6月期）の目標達成に向けた取り組みを実行し、既存ビジネスを強化しながら、「サービス事業への展開」「ライフスタイル分野の拡大」「海外事業の強化」の3つの骨太の方針を引き続き遂行してまいります。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は82億5,147万円（前年同期比6.1%減）となりました。利益面では、売上総利益率の改善（前年同期比2.0ポイント増）と販売費及び一般管理費の減少により赤字幅は縮小したものの、営業損失は2億1,378万円（前年同期は2億5,275万円の損失）、為替差損の計上など、営業外費用の増加により、経常損失は1億3,526万円（前年同期は7,503万円の損失）となりました。また、海外生産系子会社で過年度法人税等の計上などがあり、親会社株主に帰属する四半期純損失は2億9,894万円（前年同期は2億1,807万円の損失）となりました。

#### ① 文具事務用品事業

「テブラ」などの電子製品の売上減、防災用品については、前年同期に特需的な需要増があった反動による売上減などにより、売上高は49億2,283万円（前年同期比5.0%減）となりました。利益面では、売上高の減少と販管費の増加により、営業損失は3億3,817万円（前年同期は2億9,730万円の損失）となりました。

各領域の主な内容は、以下のとおりであります。

「テブラ」では、オフィスや製造現場向けにより役立つPC/スマートフォン専用の新型モデル、「テブラ」PRO SR-R5600Pを発売いたしました。本機は発売から10年以上にわたって親しまれてきたロングセラー商品（「テブラ」PRO SR5500P）を、さらに使いやすく、現場のニーズに応える仕様へとリニューアルしたモデルで、乾電池駆動に対応し、電源の確保が難しい製造現場や倉庫などでもコードレスで使用できます。「テブラ」シリーズのラインアップを充実させることで、ラベル活用の幅を広げ、新たな「テブラ」の価値と可能性を積極的に提案してまいります。

生活環境用品では、近年の地震や豪雨といった自然災害のリスクの高まりを受け、当社では、防災の“はじめての一步”として、日常生活に溶け込む“特別感のない防災”を提案する、新防災ブランド『KOKOBO（ココボ）』を発表いたしました。当社は2008年より防災用品の発売を開始し、防災用品カテゴリの売上は2020年度から2025年度にかけて、約600%の成長を記録しており、堅調に推移しています。2025年9月に「第23回 オフィス防災EXPO秋」に出展して「災害対策セット」シリーズや発売前の新商品などを展示し、来場者に向けて紹介いたしました。今後も日常と非常時の区別なく使える「フェーズフリー」の考え方などを取り入れ、生活に溶け込むアイテムのラインアップの拡充を進め、お客様に寄り添った“新しい防災のかたち”を提案してまいります。

ステーションナリーでは、㈱大創産業が運営する「Standard Products」との初のコラボレーションを実現しました。両社が共同開発した多機能で使いやすいファイル、マグネットケース、クリップボードなど全13種のアイテムを、全国の「Standard Products」店舗にて発売いたしました。

スタイル文具では、当社の文房具ブランドである「HITOTOKI」の商品として、全てのパーツが透明素材で作られた、まるで氷のような見た目の透明スタンプ「氷印」の第2弾と「氷印スタンプパッド」を発売いたしました。

「氷印」は第1弾で「グッドデザイン賞2024」を受賞したほか、「文房具屋さん大賞2025（アイデア賞）」を受賞するなど、機能性やデザイン性が高く評価され、多くのユーザーの皆様からご好評をいただいております。また2025年9月に「紙博 in 東京 vol.11」に出展し、「HITOTOKI」の新商品や限定品などを販売いたしました。

EC事業では、自社商品直販サイトにおいては、新商品の予約受注およびECオリジナル商品の積極投入により、売上が伸長しました。一方、ラチュナ事業では各モールにおける競合商品との競争激化により、一部の主力商品の売上が低下しました。この結果、EC事業全体では前年をやや下回る結果となりました。今後も直販サイトでのEC専売商品の拡充や、ラチュナ事業における新商材投入を積極的に行い、売上の拡大を図ってまいります。

海外事業では、事業全体の売上高は大幅に伸長いたしました。中国では、働く20代～40代女性をメインターゲットとした中国オリジナルのステーションナリーブランド「可麗塔（クリータ）」シリーズやステーションナリーブランド「HITOTOKI」の販売が好調に推移しています。また、中国のトレンドを取り入れた雑貨シリーズ「BAOMe」、ステーションナリーシリーズ「& TENNIS」は、高いデザイン性から話題を集めております。ベトナムでは、BtoB流通チャネルの開拓が進展しており、「テプラ」の売上や、自社工場であるKINGJIM (VIETNAM) Co., Ltd. で生産された事務用ファイルが大きく伸長しています。アメリカでは、日本でも多くの方にご利用いただいている、テキスト入力に特化したデジタルメモ「ポメラ」の現地向けモデル「DM250US」が順調に販売を伸ばしています。

(注) 「可麗塔（クリータ）」には中国語簡体字を含んでいるため、日本語常用漢字で代用しております。

## ② ライフスタイル用品事業

㈱ラドンナの売上は好調でしたが、㈱ぼん家具とライフオンプロダクツ㈱が低調に推移したため、売上高は 33億2,863万円（前年同期比 7.6%減）となりました。利益面では、売上原価率の改善や販売管理費の減少等により、営業利益は1億2,025万円（前年同期比 188.9%）となりました。

各子会社の主な内容は、以下のとおりであります。

㈱ぼん家具は、若年層をターゲットにした韓国風家具シリーズ「PUTUPUTU」が順調に推移しましたが、収益性確保のための販売価格値上げの影響や競合他社との競争激化のため、減収となりました。利益面については、値上げにより売上総利益率が向上し、加えて販促広告の効率化を進めコストダウンを図りましたが、売上高減少により減益となりました。今後は仕入原価低減を原資とした、値付けの見直し、広告運用の最適化により、売上および利益の回復を図ってまいります。

ライフオンプロダクツ㈱では、夏物商材が好調に推移しましたが、冬物商材の納入時期が後ろ倒しとなったことで減収となりました。利益面については、為替の影響による売上総利益率の改善と販管費の抑制により、増益となりました。熱中症対策の一環として直接身体を冷やすことに特化した、ペルチェプレート付きハンディファン、シャーベット状の飲料が作れる「アイススラリーメーカー」等が話題となり売上に貢献しました。今後は冬物商材の投入を加速し、さらなる売上増を目指してまいります。

㈱ラドンナは、主力のキッチンカテゴリーで好調な電子レンジ用調理器などが貢献し、酷暑によりハンディファンなどの夏物商材も好調に推移したことにより、増収となりました。利益についても売上総利益率の改善および販管費の抑制により改善し増益となっています。今後は、秋冬シーズンの新商品の投入や、好調なネット販売を含む成長販路の強化を積極的に進め、業績の回復に努めてまいります。

㈱アスカ商会では、前年の装飾用資材「グリーンフォーム」大口実績の反動減がありましたが、定番の花類および観葉類が引き続き各地域で好調に推移しており、増収となりました。利益面では、為替の影響による売上総利益率の改善がありましたが、売上拡大を見据えた計画的な販管費の増加により、減益となりました。今後はアン・デコールオリジナル商品第2弾、「premium collection」第2弾と新商品による売上加算、ならびに初出店のジャパンホーム&ビルディングショーでアスカ商会の認知度アップならびに新規開拓を図ってまいります。

ウインセス㈱は、前年比増収で推移しましたが、主要顧客業界であるエレクトロニクス産業が軟調でした。利益面では為替などの影響で原価率が改善し増益となりました。引き続き、既存分野における顧客拡大および新規分野の開拓を目指してまいります。

## (2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して8億6,215万円増加し、363億7,531万円となりました。これは主に、売掛金が減少した一方、商品及び製品や投資有価証券が増加したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比較して8億8,451万円増加し、123億4,539万円となりました。これは主に、運転資金需要として短期借入金が増加したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比較して2,236万円減少し、240億2,992万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が増加した一方、第77期期末配当金の支払いおよび親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年7月31日に公表いたしました2026年6月期第2四半期（累計）の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年9月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,831,528	6,747,841
受取手形	226,669	208,178
売掛金	5,159,478	4,140,375
商品及び製品	9,700,866	10,804,902
仕掛品	301,213	340,121
原材料及び貯蔵品	1,190,668	1,323,877
その他	653,503	765,160
貸倒引当金	△484	△835
流動資産合計	24,063,443	24,329,621
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,196,545	6,211,898
減価償却累計額	△4,306,709	△4,350,422
建物及び構築物（純額）	1,889,836	1,861,476
機械装置及び運搬具	3,517,938	3,574,549
減価償却累計額	△3,221,779	△3,294,394
機械装置及び運搬具（純額）	296,158	280,154
土地	1,570,022	1,570,022
建設仮勘定	56,104	90,261
その他	3,172,541	3,187,509
減価償却累計額	△2,873,047	△2,885,692
その他（純額）	299,493	301,816
有形固定資産合計	4,111,615	4,103,731
無形固定資産		
のれん	739,574	698,487
その他	1,084,655	1,079,441
無形固定資産合計	1,824,230	1,777,928
投資その他の資産		
投資有価証券	2,977,800	3,600,556
退職給付に係る資産	1,866,257	1,898,529
繰延税金資産	183,265	187,225
その他	487,753	479,555
貸倒引当金	△1,199	△1,831
投資その他の資産合計	5,513,877	6,164,035
固定資産合計	11,449,723	12,045,696
資産合計	35,513,167	36,375,317

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年9月20日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,140,419	1,376,193
短期借入金	4,540,000	5,270,000
1年内返済予定の長期借入金	437,806	599,233
未払法人税等	254,476	89,389
未払金	759,464	723,082
契約負債	31,342	24,356
役員賞与引当金	6,222	1,000
株主優待引当金	37,532	37,532
その他	1,003,193	1,035,100
流動負債合計	8,210,456	9,155,888
固定負債		
長期借入金	1,300,482	1,083,889
繰延税金負債	948,343	1,081,124
退職給付に係る負債	515,723	531,528
資産除去債務	41,353	41,983
その他	444,518	450,982
固定負債合計	3,250,422	3,189,507
負債合計	11,460,879	12,345,396
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,978,690	1,978,690
資本剰余金	1,717,975	1,717,975
利益剰余金	21,593,605	21,097,779
自己株式	△2,947,298	△2,947,298
株主資本合計	22,342,973	21,847,147
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,085,534	1,511,881
繰延ヘッジ損益	921	△1,370
為替換算調整勘定	420,742	483,678
退職給付に係る調整累計額	115,027	101,495
その他の包括利益累計額合計	1,622,226	2,095,685
新株予約権	87,088	87,088
純資産合計	24,052,288	24,029,921
負債純資産合計	35,513,167	36,375,317



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月21日 至 2024年9月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年6月21日 至 2025年9月20日)
売上高	8,785,176	8,251,473
売上原価	5,537,849	5,035,836
売上総利益	3,247,326	3,215,636
販売費及び一般管理費	3,500,086	3,429,424
営業損失(△)	△252,759	△213,787
営業外収益		
受取利息	6,257	3,175
受取配当金	54,754	68,798
為替差益	84,321	—
受取賃貸料	37,094	37,254
その他	19,783	27,031
営業外収益合計	202,210	136,259
営業外費用		
支払利息	11,930	18,455
為替差損	—	26,084
賃貸収入原価	11,748	12,607
その他	804	593
営業外費用合計	24,483	57,741
経常損失(△)	△75,032	△135,269
特別損失		
固定資産売却損	—	139
固定資産除却損	103	90
特別退職金	—	20,102
特別損失合計	103	20,332
税金等調整前四半期純損失(△)	△75,135	△155,602
法人税、住民税及び事業税	89,089	98,641
法人税等調整額	53,854	△60,958
過年度法人税等	—	105,657
法人税等合計	142,943	143,340
四半期純損失(△)	△218,078	△298,942
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△218,078	△298,942

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月21日 至 2024年9月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年6月21日 至 2025年9月20日)
四半期純損失(△)	△218,078	△298,942
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△21,408	426,347
繰延ヘッジ損益	△16,354	△2,292
為替換算調整勘定	△117,328	62,936
退職給付に係る調整額	△15,865	△13,532
その他の包括利益合計	△170,956	473,459
四半期包括利益	△389,035	174,516
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△389,035	174,516

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年6月21日 至 2024年9月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	文具事務用品 事業	ライフスタイル 用品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,183,236	3,601,940	8,785,176	—	8,785,176
セグメント間の内部売上高 又は振替高	23,281	60,857	84,138	△84,138	—
計	5,206,517	3,662,797	8,869,315	△84,138	8,785,176
セグメント利益又は損失(△)	△297,306	41,631	△255,674	2,915	△252,759

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額 2,915千円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年6月21日 至 2025年9月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	文具事務用品 事業	ライフスタイル 用品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,922,836	3,328,637	8,251,473	—	8,251,473
セグメント間の内部売上高 又は振替高	63,093	24,424	87,518	△87,518	—
計	4,985,930	3,353,061	8,338,991	△87,518	8,251,473
セグメント利益又は損失(△)	△338,173	120,255	△217,918	4,130	△213,787

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額 4,130千円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）およびのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月21日 至 2024年9月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年6月21日 至 2025年9月20日)
減価償却費	151,075千円	151,345千円
のれんの償却額	50,014千円	41,087千円